

つながり

86号

2016.12.14



青森県高P連調査広報委員会

題字：会長 大溝雅昭

青森県高等学校PTA連合会事務局

〒030-0113 青森市第二問屋町4丁目11-6 計量検定グループ庁舎内

TEL 017-757-8586

FAX 017-757-8587

E-mail : akp017si@galaxy.ocn.ne.jp

http : //www.aomori-koupren.com/



中村 充教育長

中村 充教育長は、本年7月に行われた参議院議員通常選挙で、「投票率全国最下位脱出」のために、高校生の作品をテレビCMに起用したことが紹介されました。選管の「全国最下位脱出」のご苦労を垣間見ることが出来ました。青森南高等学校の神孝幸教諭は、総合的な学習で行った主権者教育を発表しました。県知事・市

11月2日、アップルパレス青森において、平成28年度あおもり教育フォーラム・青森県高P連健全育成研修会が、県教育委員会と県高P連の共催で開かれました。「高校生の主権者教育の充実について」がテーマで、各校健全育成委員会を中心に110名が参加し、盛会となりました。中村充県教育長と大溝高P連会長の挨拶の後、前半は「本県における主権者

教育の取組について」をテーマにパネルディスカッションが行われました。青森大学社会学部、柏谷至教授がコーディネーターを務め、県教育庁学校教育課副参事の髙谷悟氏、県選挙管理委員会事務局主幹の柿崎有子氏、むつ工業高等学校PTA会長大見竜人氏、青森南高等学校の神孝幸教諭をパネラーに活発な意見交換が行われました。県教育庁の髙谷悟氏から、生徒向

けの副教材「私たちが拓く日本の未来」の配布や、教員向けの研修会、「教育広報あおもりけん」による広報活動等、様々な活動を展開してきたことが報告され、県選挙管理委員会柿崎有子氏からは、本年7月に行われた参議院議員通常選挙で、「投票率全国最下位脱出」のために、高校生の作品をテレビCMに起用したことが紹介されました。選管の「全国最下位脱出」のご苦労を垣間見ることが出来ました。青森南高等学校の神孝幸教諭は、総合的な学習で行った主権者教育を発表しました。県知事・市長・市議会議員等、外部人材を活用した事例でした。また、高校生にとっては教員の影響力が大きく、政治的中立性を確保する難しさもお話しされました。1年次から3年間を見据えての取組は本当にすばらしいものでした。むつ工業高等学校大見会長は、家庭において夫婦間で選挙の会話を、高校生の息子に聞かせることで興味を持たせたというお話をなされましたが、親子関係がデリケートな時期ならではのアイデアと思いました。

後半のグループワークでは「これからの主権者教育について」各テーブルごとに小テーマを選んで話し合いが活発に行われました。



パネルディスカッション

家庭での取組では、「親子で地域社会の身近な問題を話し合うことが必要である」「親が投票する姿を子どもに見せなくてはいいない」といった意見、行政側への要望では「小学生でもわかるリーフレットが欲しい」「選挙についての基本的知識や姿勢を学校で教えて欲しい」等の意見がありました。最後に八戸西高等学校鎌田校長先生が御自身の経験を踏まえて、主権者教育の必要性を話され今回の研修を総括していただきました。私にとってはやや苦手なテーマでしたが、目まぐるしく変化する現代社会の中で、子ども達は将来自立して「生きる力」を身につけなければいけません。主権者教育はその一助になるということを痛感した研修でした。参加された皆様、関係各位に感謝申し上げます。ありがとうございます。（健全育成委員長 下館 幸作）

青森県高P連健全育成研修会

平成28年度あおもり教育フォーラム



グループ代表による発表

広報紙づくり研修会

「ニュースに親しみ、編集を楽しもう」
「まわしよみ新聞を通して」



作成した新聞の発表

8月31日、青森県総合社会教育センターにて『広報紙づくり研修会』が開かれました。会場には前年度のPTA広報紙が並べられていました。それぞれ読みやすいように工夫が凝らしてあり、自分たちの広報紙にはない表現の仕方や、今後の広報紙づくりに参考にしたいものなどが幾つもあり、読んでいただけ勉強になりました。

広報紙づくり研修会の開会行事は、調査広報委員長の言葉から始まり、事務局校である大湊高校福祉広司校長先生から挨拶がありました。次いで千代谷県高P連事務局長から、広報紙コンクールにつ

いてお話がありました。選考方法は例年通り『学校と家庭を結ぶ』『見やすく、読みやすい』『学校の現状を十分に伝達する』『特色のある』紙面が作られているか、それらの観点より総合的に選考されるということです。

次に、前年度青森県高P連広報紙コンクール最優秀受賞学校である、青森中央高等学校の広報委員会より広報委員会活動について発表がありました。青森中央高等学校の広報紙は年に3回発行しており、1学期は教職員・PTA役員の紹介をメインで作作り、保護者に教職員の顔を知ってもらうことを目的とされています。PTAカレンダーとして年間予定を掲載した号を発行されています。2学期末に発行される本号は、特に強いこだわりを持って作られていると思われました。早い段階からレイアウトを作成し、ある程度の段階で仮印刷をし、イメージを固めていくなど、校了までの流れだけを見て、ものすごい熱意を感じました。

研修会は昨年に引き続き東奥日報社編集局整理部部長である石鉢康範氏から『ニュースに親しみ、編集を楽しもう』というテーマの講演とまわし読み新聞の研修が行われました。講演では、新聞を作るうえでいかにレイアウトなどが

県高P連研修会

思春期の不安と不快のいやし方

今年度の県高P連研修会は、9月21日、県総合社会教育センターにおいて開催され、県内各地より167名の方々が参加してくださいました。講師は、好評により、昨年に引き続き、メンタルトレーナーとして全国でご活躍されている佐藤正則氏をお迎えし、「思春期の不安と不快のいやしかた」をテーマに、まずは、佐藤氏の自己紹介の後、参加者も隣同士で向い合い、参加理由、名前等簡単な自

己紹介も行われ、脳の仕組みや「思い方」について、熱く語ってくださいました。

私たちの体は、脳からの神経を通じて出される指令によって、生命活動をしています。ところが、不安や不快を抱えると、脳や身体活動を停滞させるようなホルモンが分泌され、健康を損ねたり、せっかくなにつけた実力も発揮できなくなるといいます。そこで、どんな状況でも前向きに取り組むために自分で脳を簡単に鍛えることが出来るということです。

その、「思い方」とは、「自分にはできるだろう」と期待感を膨らませる。すると、脳は、その人が思ったことを働かせようとする特性があるので、「できる」と思えば、脳は、体全体に「できる」という信号を送り、体の活性化を促すということです。「できる」と好奇心・興味を持つ。さらに、「できた・よかった」と満足する脳にする。期待することでチロトロン、好奇心・興味を持つことでコルチコトロピン、満足すると思うことでドーパミンと、体に良いホルモンが分泌されやすくなり、思うだけでホルモンも変わり普段の力が大いに発揮できるということです。子どもが幼い頃、「お母さん、できた」「先生に褒められた」と

大切な学びました。まわし読み新聞の研修では、石鉢氏にお持ち頂いた新聞を回し読みし、各々気になった記事を切り抜き、気になった記事を話し合いつつ紙面構成やレイアウトを決め、台紙に張り付けまわし読み新聞をつくる、ということを行いました。まわし読み新聞を作ってみることで、見出しやレイアウトが新聞の印象を大きく変えていくものなのだと改めて学ぶことが出来ました。

広報紙は学校やPTA役員、学生、保護者を結び付けていくのにとっても重要な役割をしているのだと改めて感じました。研修会で学んだことを生かし、より良い広報紙作りに励みたいと思います。(調査広報委員長 道閑 貴美)



講師の佐藤正則氏

か嬉しそうに教えてくれましたよね。心当たりありませんか。できて、嬉しさを体で表現してしまいたよね、嬉しくて、嬉しくて。その、喜びの目標を見つけてあげましょう。子どもは、何をしているときに一番嬉しいのか見つけてあげましょう。「自分にはできるんだ」という思い方と前向きな行動でどんな成果があるのだそうです。

今日の研修会で、体の健康だけでなく、脳が健康で初めて私たちが健康であることを深く感じました。「思い方の練習」で「よかった ありがとう」を3回唱え、隣り同士で手を触れるとその手はなんと、温かくなっているのです。脳の力で必ず、温かくなるという脳の力を知る良い研修会でした。(研修委員長 川村はる子)

進路指導講演会

キャリア教育の重要性 ～学校・家庭・地域の更なる連携～

10月13日、県総合社会教育センターにおいて、進路指導講演会が139名参加のもとで開催されました。

高校生が望ましい職業観や勤労観を身につけるためにキャリア教育が大きな注目を集めています。

が、今年度は「21世紀の学力」を自立して生きる力を育てるには「～」をテーマに掲げました。いかにして子供たちを育てるか、そのために親としていかに成長していくかは皆さん共通の課題だと思えます。今回はキャリア教育に精通された講師に講演をしていただき、各単位PTA相互の連携と保護者個人の資質を高めることを目的として企画いたしました。

講師のスクール・アドバイザー・ネットワーク理事長で、キャリア



熱く語る講師の生重幸恵氏

教育コーディネーター協議会代表理事の生重幸恵氏から、「キャリア教育の重要性～学校・家庭・地域の更なる連携～」と題して、ご自身の研究や経験、全国各地の事例等に触れながら、熱い思いが伝わる講演を頂きました。

生重氏は、初めに、今こそ高校PTAは、子供たちのためにやらなければならないことや学ばなければならないことを基礎に各単Pが保護者に発信し、PTA活動にあまり関心のない親の気持ちを変え、親同士が話し合う状況をつくり出すことが求められている。その役割の発揮を期待すると、私たちを激励しました。

その上で、人の話をよく聞き、自立し、自分の将来設計をしつかり立てられ、社会に貢献できる人材を育てるには、PTAや家庭、地域等が関わる「社会教育」と「学校教育」のコラボレーション、更には、大学や専門学校、企業等と連携したキャリア教育が求められている。また、高校生が自らの人生を選択していく上で、どういう選択手法があるのか、学校という公の場で彼らが考える機会をつくるとともに家庭や地域でもそうした機会をつくり、大人と話すことが面倒だと思わない子供をつくるのが大事だ。そもそもキャリア

加盟校紹介

世界に評価された五農の挑戦

青森県立五所川原農林高等学校

校長 山口 章



ア教育とは、職業観ではなく、自分が生きていく軌跡をどう描くのかということ、つまり、どう生きていくのか、誰とつながっていくのかなどを体験や話し合いを通じて高校生自らが考える力を養い、自立した人財を育てることである。その意味で高校は、生きて行く上で大事な人とのつながりを教える最後の砦だと述べられました。

この講演では、私たち高校PTAや家庭、地域が取り組むべき確かな道標を示していただきました。

(進路対策委員長 前田 晴茂)

■グローバルGAPチーム誕生

世界の農作物は、第三者認証による安全性の証明が流通の常識。農業の未来を担う高校生が、世界の常識を知らずして日本の農業の未来はないと考え、グローバルGAP認証を生徒に挑戦させることに。全学科に募集したところ15名の生徒が集結、グローバルGAPチームが誕生しました。

■挑戦～認証取得へ

生徒たちは放課後や土日に、基準書の専門用語の解釈、リンゴ園地でのリスク管理、小売店までのトレーサビリティ確立等に奔走。教員は質問があれば調べ方をアドバイスするサポート役です。その努力が実り昨年12月、念願の認証を取得しました。

■グローバルGAP大賞2016受賞へ

認証取得を契機に、NECとのICTを活用した認証取得教育プログラムの共同開発を開始、また、今年度は、グローバルGAP教育を教育課程に取り入れ、リンゴに加えてコメでも認証に挑戦。さらに、グローバルGAP普及のため生産者、行政、教育関係者など120人に審査を公開しました。

一連の活動が高く評価され、9月末にオランダ・アムステルダムで開催されたグローバルGAPサミットにパネリストとして招待され、グローバルGAP 大賞 2016を世界の高校で初めて受賞しました。

49か国の代表500人が参加したサミットでは、本校生徒と

私が、国連ブルームーン財団や世界金融公社の方々とパネリストとして一緒にパネルディスカッションに参加し、本校の取り組みをもとに、審査用ではない日々のGAP（適正農業規範）文化の醸成について議論しました。2日間のサミットの総括会では、本校生徒が全体の代表4人のうちの一人に選ばれ、農業に対する将来の夢を語り、鳴りやまない拍手に包まれました。

■未来のために

世界認証取得に終わらず、生徒に世界のアグリビジネスに参入していくノウハウを身に付けさせたいと考え、1月に「海外輸出・販売研修旅行」を実施します。面倒な輸出手続を生徒が全て行い、本校産リンゴを中国四川省成都に輸出し、現地で販売実習を行います。JETROから現地の経済文化等の研修を受け、マーケティングにより価格設定や販売方法を生徒が考え実践します。

アジアで韓国や中国産のリンゴの台頭を耳にします。青森の栽培技術を得て、青森りんごに品質が近づいている上に低価格との情報も。県産農作物の未来にどんな試練が待っているかと、生徒たち若い世代に世界規準と世界のアグリビジネスに挑む力があれば、本県農業の未来は明るいと信じます。また、その教育こそが地域とともに114年歩んできた五農の使命であると考えます。

優良PTA文部科学大臣表彰を受賞して

青森高校渉外部主任 杉澤 雅寿

日本最大級のコンベンション施設幕張メッセで開催された第66回全国高等学校PTA連合会千葉大会。5千人以上収容できる幕張イベントホールに到着した時、その広さと人の多さに驚きました。ちょうどアトラクションとして、全国大会において金賞の常連校として名高い千葉県柏市立柏高等学校吹奏楽部のハイレベルなマーチングが披露されている最中で、初めて全国大会に参加する私は、表彰は赤木長義PTA会長が代表で受ける予定になっていたにも関わらず「ここで表彰を受けるのか」と、その雰囲気にとくと緊張感を覚ええました。また、駅や会場周辺には猛暑の中、大勢の千葉県スタッフの大きな声が響き、みな一生懸命に私たちを出迎えてくれる姿には感動しました。

さて、本大会では本校の元PTA会長山谷清文さんが全国高P連会長表彰、青森高校父母教師会が優良PTA文部科学大臣表彰とダブルで受賞しました。山谷さんは東青地区協議会会長や県高P連副会長として活動され、本校が事務局を担当した東北地区高P連青森大会を、実行委員長として成功に導きました。また本校父母教師会は、研修母親、健全育成、広報の3つの委員会があり、それぞれ近隣大学の視察研修、登校時一声運動、年三回の広報誌「甲田」の発行等の活動を、忙しい合間をぬって本当に熱心に行っていました。今回の受賞はこれまで長年にわたって多くの皆さんがPTA活動に参加され、地道に活動されてきた賜だと思っています。PTA活動に関わったすべての皆さん、おめでとうございます。そしてこれまでの活動に本当に感謝申し上げます。



参加した青森高校の皆さん

全国大会会長表彰を受賞して

八戸高校PTA 若宮 佳一

八戸高校PTAは平成28年度全国高等学校PTA連合会会長表彰（団体）の栄誉に浴する事ができました。日頃からの皆様方のお付き合いとご協力に改めて感謝申し上げます。今後ともより一層のご指導をよろしく願います。

さて、大会2日目の全体会の記念講演では、女優の市原悦子さんが「私の選んだ女優の道」と題しまして、戦時中の疎開先での苦労や戦後の食糧難、物資の不足などの話を交え、自分の進路選択などに何がどう影響してきたのか、どこが分岐点だったのかなど自分の人生を振り返りながらお話をされました。小学生、中学生時代は勉強が苦手だったけども、男子顔負けのおてんばで体を動かすことが得意だったそうです。そこから演劇や女優の道へと邁進されています。

現在、私たちPTAは戦争の悲惨さを映像や写真でしか知らない戦後生まれの新人類？と言われる世代で構成されています。高度経済成長のまった中に生を受け、そしてバブル経済のまった中に社会人となりました。

国外に目を向けるとさまざまなテロ攻撃が頻発しています。そしてその報復として、一般人を巻き込む可能性のある空爆が各国で承認されている。このような世界の情勢の中、日本は戦後70年もの間、いかなる状況の中でも、武力的な紛争を起こしていません。まさに日本の戦後教育の賜物であり、これからの未来をつくる人材育成の根幹となるものだと思います。子ども達に市原悦子さんと私たちの親たちが経験した戦争というものの悲惨さを伝えて行くことが私たち世代の親の使命であり、責任であると改めて痛感させられます。

暮らしを豊かにするための先進的技術とともに、豊かな心を育む日本の教育を世界中に輸出していくためには丸くなるのではないかと日々考えさせられています。子ども達にも世界を丸くするために何がこれから必要か？という事を問いかけながら親子共々成長してまいりたいと思います。

話は変わりますが、今年の8月ブラジルのリオデジャネイロ市で行われたオリンピック。日本チームは過去最高の41個のメダルを獲得いたしました。その中でも八戸市出身の伊調馨選手。自身4大会連続の4個目の金メダル。しかも、残り時間3秒の大逆転での金メダル。皆さんはどうお感じになりましたか？ クラーク博士の「ボーイズ、ビー、アンビシャス」の一説を知っていますか？「金のためではなく、利己的な功績のためではなく、人が名声と呼ぶはかないもののためでもなく、少年よ大志を抱け」だそうです。私が感じるのには伊調馨選手の「大志」というものはまだこれから始まる人生の中にあるような気がします。

結びになりますが、青森県のすべての子ども達の健全なる成長と、PTA関係者、そして教育関係者のますますのご健勝を御祈念申し上げます。



表彰状を手に 八戸高 諏訪内渉外部主任

「表彰状をいただきたい」

青森商業高校前PTA会長 太田 清貴

本年7月7日・8日開催の第65回東北地区高等学校PTA連合会仙台大会において表彰状をいただきました。これもひとえに、私の所属しておりました単Pである青森商業高校PTA会員の皆様と、青森県高等学校PTA連合会会員の皆様のご協力のおかげと紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

今回身に余る表彰を受けましたが、私とPTAとの関わりを少し記してみたいと思います。実は、上の子の小学校入学以前より出入りの業者として青森市PTA連合会とお付き合いがありました。そして、子どもの小学校入学と同時に役員ポストが無言のうちに用いられ、以来小中学校で11年間、高等学校で6年間、それぞれでのPTA役員として通算15年間務めさせていただきました。（中学校と高校でのPTA期間がダブっております。）そしてこの度、1年間の留年(?)を経て本年3月めでたく第一線を退かせていただきました。（現在は単Pの顧問としてまだ関わりを持たせていただいております。）この間事故もなく楽しく過ごせましたのも、皆様のおかげと改めて感謝申し上げます。

さて、昔の話ですが学校を卒業しこれから社会人として仕事をしていく上で一生の目標として掲げたのが「人脈作り」と「金脈作り」でした。私にとつてのPTA活動は、本広報紙の題名にもあります通り、まさしく「人脈作り」に繋がる「つながり」でした。子どもたちを含めた家族とのつながり、地域とのつながり、学校とのつながり、保護者同士のつながり、いろいろな方々からいろいろなことを教えていただき、私にとりましては非常に有意義な15年間でした。

私の大好きな俳優、高倉健さんの言葉です。「人生っていうのは人と人の出会い、一生の間にどんな人と出逢えるかで人生は決まるんじゃないですか。人生ってそれ（出会い）だけって気がします。泣いたり、笑ったり、憤ったり、感動したり…。私にとつて心に染み入る言葉です。」

今後は現役PTA会員皆様のバックアップと、今までのつながりを忘れることなく、私にとつて新たなステージでの新たな出会いを楽しみにしてまいりたいと思っております。これから何とぞよろしく願いたします。

最後になりましたが、もう一つの目標であった「金脈作り」はいまだに縁（円）ありません…。



受賞者代表謝辞 住吉前会長



高校生によるアトラクション（柏高校吹奏楽部）

大会に参加して

むつ工業高校PTA会長 大見 竜人

平成28年8月25日・26日に千葉市の幕張メッセをメイン会場に開催された千葉大会に参加しました。

私は都合で、第1日目の25日午前の開会式には出席できずに午後の特別分科会からの参加でした。私が出席した特別分科会は『学校の危機管理とPTA』生徒指導上の諸課題解決のために』というテーマで進められ、前半は千葉科学大学の土北彰氏による基調講演で、後半はコーディネーターの千葉科学大学の戸塚唯氏と、保護者と教員合わせて5名のパネリストによるパネルディスカッションでした。どのようにすれば子供たちにリスク対応能力を持たせることができるのか、多くの意見が交わされました。

その後、東京都内のホテルへチェックインして、近くの居酒屋でむつ下北地区からこの大会へ参加している他の高校のPTAの皆さんと合計10名で交流会を行い、交流を深めました。

第2日目は千葉県立八千代高等学校鼓組の迫力ある太鼓の演奏に始まり、メインは女優 市原悦子氏による記念公演（講演ではなく公演）でした。幕張メッセのとても大きな会場でも市原さんは女優のオーラがすごくて、客席から登場してステージへ上がるまで拍手が鳴りやみませんでした。大女優の素晴らしい演技を間近に感じる事ができてとても感動しました。そのあと分科会の報告、閉会式へと続き、来年の静岡大会の紹介も行われ大会の幕は降ろされました。

今回の千葉大会に参加してみて、移動時間がとても長く、定期的に残暑が厳しい時期ということもあり体力的にも結構大変だったのですが、他県のPTAの取組など参考になるものが多い数ありとても勉強になりました。

何より、東京で地元のPTAの皆さんと一緒に飲んだビールがとても美味しかった。

また来年も全国大会に参加したいと思います。

歴史に幕

津軽と岩木の名を頂いて

岩木高等学校

平成29年3月、青森県立岩木高等学校は県立弘前中央高等学校に統合され、69年の歴史を閉じます。これまで、本校に心を寄せお力添えくださいました皆さまに紙面をお借りして感謝申し上げます。



本校の歴史は、教育の機会均等をめざして新しい教育制度が施行された昭和23年に始まります。県内唯一の昼間定時制の大浦分校と

して開校し、昭和32年に岩木村立青森県津軽高等学校として独立。昭和53年の県立移管とともに定時制課程を閉じ、全日制普通科の岩木高等学校となりました。大浦分校時代からの卒業生は5648人を数えます。

本校の特色の一つでもあるお山参詣は、昭和54年から岩高祭で行われ、一時中断したものの、平成12年度からは「レッツウォークお山参詣」に参加する形で続いています。本年8月31日、全校生徒65名と教職員、保護者が参加した本校最後のお山参詣で、「岩木の絆よ永遠に 69年間ありがとう」と記した横断幕を掲げると、沿道から温かい拍手をいただきました。

これまで「生徒一人ひとりの顔が見える」小さな学校の良さを生かし、「地域に学び地域と生きる学校」として取り組んできたことが、根付いている証だと思えます。

それを支えてくださったのが、保護者と地域の皆さまです。登校指導、花植え、岩高祭のバザーや食堂、運動会の炊き出し、PTA日より、県の高校教育改革で統合が決まった平成24年から「生徒の思い出づくりに」と始まった全校餅つき大会——「うちの子は卒業したけど、岩木のためなら」と駆けつけてくださ

る方もあり、学年が減り人数が少なくなっても、従来と同様の活動が続いています。

本校は弘前城から西に約2キロ、岩木川を渡った所にあり、校舎から見える岩木山は校庭一杯に裾野を引いて広がります。今も、毎朝職員が玄関で生徒を迎え、朝読書、SHR、授業と、落ち着いた普通の学校生活が続いています。ただ、放課後の部活動はもうありません。代わりに閉校に向けての取り組みが進んでいます。

学校がなくなる時に思うこと

八戸北高等学校南郷校舎

本校は、昭和23年、八戸市南郷（当時は三戸郡中沢村）に名久井農業高等学校の中沢分校として開校し、以来69年間の歴史を刻み、総勢約6000人の卒業生を輩出、平成29年3月末をもって閉校します。

開校当初は、当時の新聞等にも掲載されているように、地域の方々からの教育への熱い思いの結実だとされており、以来、社会や地域の情勢やニーズ、生徒の変化等に対応すべく、より適する教育内容・方法等へと改訂がなされるなど、校名変更を経ながらも、地域と共に、地域に支えられ愛されてきた学校です。

最後の卒業生となる、後輩を持たない30名の生徒達は、学校生活

この春、倒木の恐れがあるため伐採した校庭の桜の木が、皆の手で閉校式の記念品に生まれ変わりました。本校の校舎も、閉校後に改修工事を経て、県立弘前第一養護学校の高等部として生まれ変わることになっています。

岩木の名を頂く高等学校は無くなりますが、「夢をはぐくみ実現する学校」をめざした私たちの思いが、この津軽のどこかで芽吹き育っていくことを願っています。69年間ありがとうございました。

（校長 飛内 文代）

においてはしっかりと勉強に向かうことは元より、学校行事等に関しても「自分たちで企画し運営する」という伝統を守り、全てに「最後の」という形容詞が付く様々な行事を、見事に、多彩に、遅しく取り組んできました。各行事において、多ければ片手に余るほどの役割を分担して、こちらから休憩を促したくなるほど、常に全力で当たっていました。

一方、生徒達の頑張りの陰には、保護者の力強い支援があったことも確かです。教職員数も少ないため、一般論では、それは仕方のない当然のことと言えるでしょう。

ですが、本校の保護者の方々が自発的に声を掛け合い、アイデアを出し合い、生徒達を支えようとする姿勢は、いつもとても自然に見えるのです。この年度だけの単



発の活動だとか、ただこなせば良いようには見えないのです。私には、これは本校保護者の伝統ではないか、代々の先輩保護者から受け継がれた歴史ではないかと思えたのです。

保護者は子どもを養い、教職員は子どもの能力や可能性等を引き出す。子どもが抱く興味関心や希望の実現等について、保護者と教職員はそれらを確かめ合い、活動領域を組み立て、意見を交換し、相互に補いながら「育み」を施していく。

保護者の方々の活動が子どもの達成感や笑顔に「つながる」のを見て、学校の日常には、教職員と手を携えるPTA活動が重要な意味を持つと、改めて考えるのです。

（教頭 川嶋 幹二）

青森県高等学校体育連盟

研究大会について

青森県高等学校体育連盟では毎年、青森県高等学校安全互助会のご支援をいただき青森県高等学校体育連盟研究大会を実施しております。研究大会は、望ましい部活動のあり方を求めてと題して青森県内の高校運動部活動指導者を対象として、安全な指導や競技力向上などを目標にした研修会で、昨年度で丁度20回を数えました。今年度も11月25日に青森県総合社会教育センターにて第21回目を開催いたしました。

今回は、日本ストレッチング協会理事を務める長畑芳仁氏をお招きし、安全でかつ競技力向上に結びつくストレッチングについて講演および実技指導を行ないました。長畑芳仁氏は現在も日本のトップアスリートの指導にあたられており、東京オリンピックに向けて大変御多忙な中、御協力いただきました。研究大会当日は、80名あまりの指導者が熱心に講演および実技講習に参加されました。長畑氏は、ケガを防止するだけでなく運動パフォーマンスの向上につながるストレッチングを実施するために、正しい理論や方法を理解

して行なうことが重要であると強調されました。従来の静的ストレッチのほかにも、相反する筋肉を収縮させる動きを利用したアクティブ・ストレッチの方法や筋膜リリース等の効果も紹介されました。参加者は、実技研修でそれらを実際に体験しながら、生徒への具体的な指導方法を学ぶことができました。また、ラクロスボールやゴムチューブを使った方法も同時に紹介され、幅広い指導ができるようにアドバイスをいただきました。参加された方々にとつては、今まで実施してきたものとは違った驚きや感動を味わえた有意義な研修会となったことでしょう。

また、3年おきに実施している運動部活動調査の結果を発表しました。その中で、現在の高校では運動部活動加入率が向上しており、生徒数が減少しても各校各部が部員の確保に工夫しながら頑張っていることが見えてきました。生徒を支える家族や指導者は、生徒が安全でかつ有意義に活動できるように、より一層学び、努力しなければならぬと痛感します。

(高体連研究部

芦野 伸彦)



ストレッチング実技指導

平成28年度上十三地区協議会

健全育成研修会

文部科学省委託事業「ネットキャラバン隊」

平成28年11月4日、サンロイヤルとわだを会場として研修会を開催しました。今年度は春の総会で健全育成委員と研修委員が合同で研修をしてはどうかと提案され、試みに企画がなされました。

この企画は7月7日の東北地区高P連仙台大会に参加した際、同地区の保護者から「ネットキャラバン隊」のお話があり、開催することになりました。

初めに文部科学省、生涯学習政策局青少年教育課、推進課長の内海隆博氏より「青少年を取り巻く有害環境対策の推進について」の

お話がありました。まず、スマホやインターネットの青少年の利用の現状についての説明があり、インターネットの有害環境等から青少年を守るために、危険性について保護者が自分たちで再認識する必要があると話されました。また、学校においては、スマホ、携帯電話の取り扱いや情報モラル教育の推進をお願いするとの内容でした。

次に安心ネットづくり推進協議会より米田健三氏をお迎えし、「情報モラルってなあに?」日常生活のモラルや情報生活の特性を再確認し、子供の創造力を育もう」のテーマで講演を頂きました。

米田氏はスピーディーな解説で、昨今の携帯・スマホの普及により、インターネット上の違法・有害情報サイトのトラブルに青少年が巻き込まれている現状を踏まえ、子供たちの現状、今後の課題についてオリエンテーションを行って頂きました。

その後、米田氏からの「モラル・マナー・ルール」について、各グループ毎のブレインストーミングでは活発な意見交換が行われ、発表にも工夫を凝らして真剣に取り組みました。



グループワーク

最後に、ルールは子どもたちが主体的に、かつ具体的に決めるが、家庭のルールも具体的な決まりを作っておくこと。また破った時の罰も具体的に考えておくことが有効であること。保護者はその管理者であり、学校との連携が大切だということ。被害者が加害者になる場合などもあるということ。

従って、私達大人は知識を共有し、一緒に見ていくのが大切であると力説していました。

この研修会には、小学校、中学校の保護者の皆さんや、各高校からたくさん保護者や先生方が参加していただきました。皆さんのご協力に感謝いたします。

(七戸高校渉外部 布施 眞澄)



青森県高等学校安全互助会 共済金支払いの見直しについて

青森県高等学校安全互助会の財政赤字の問題は平成27年から検討を重ねてきました。これまで幅広く共済金の支払いに努めてきましたが、現行では法律で定められている収支バランスの均衡が保たれない状態となっています。将来の財政破綻を避けるために県教育委員会の指導、助言を頂きながら議論を重ねた結果、今年度、理事会・評議員会で平成29年度から互助会からの共済金支払い基準を改定することが承認されました。会員の皆様には何とぞご了承頂きたく、ご報告いたします。今後とも安全互助会の健全運営に努め、生徒の安全と学校に於ける教育活動の円滑な実施に寄与して参ります。

加入者（生徒）から受け取るお金の流れのイメージ（全日制的例）

(収入)			(支出)	
共済掛金 (600円)	純掛金 (338円)	→	共済金・支払準備金等の財源	
	付加共済掛金 (262円)	→	事業費（共済金除く）・経費等	

収支バランス1（当期経常増減額）			参 考
	平成26年度	平成27年度	
経 常 収 益	22,361,893	21,358,598	
経 常 費 用 計	30,182,596	27,813,869	
当 期 経 常 増 減 額	-7,820,703	-6,455,271	収支バランスがとれていない

収支バランス2（純掛金と共済金）			参 考	
	平成26年度	平成27年度	H26年度ベースで見直しをした場合	H27年度ベースで見直しをした場合
1. 共 済 金 支 払 総 額	16,023,000	13,989,300	11,406,000	9,828,000
2. 純 掛 金 総 額	11,787,998	11,510,984	11,787,998	11,510,984
1 / 2 × 100	135.92%	121.53%	96.76%	85.37%

* %は100円の収入でいくら支出しているかを表示

	改 革 案
共 済 金 給 付 水 準 の 見 直 し 予 定	(現行) スポーツ振興センターの給付金2,500円以上に対し20%を共済金として支払う。 (改定) スポーツ振興センターの給付金が20,000円以上に対し20%を共済金として支払う。 スポーツ振興センターの給付金が250,000円以上の場合共済金は一律50,000円とする。

参 考	平成26年度	平成27年度
給付水準見直しで減額する給付金額	4,617,000円	4,161,300円

*改革案では純掛金の収支バランスは100%未満となるが、経常収支は赤字の予定。

今後、公益事業（高P連、高文連、高体連への補助事業）の見直しやその他経費の見直しを検討し、収支相等を目指していきます。

編 集 後 記

広報紙「つながり」86号は、東北大会や全国大会をはじめ、他各委員会の研修会の様子を主に編集いたしました。本紙を通じて子供たちの学校生活の様子や、PTA役員の活動の情報を共有して頂ければ幸いです。

最後に、いつもPTAの活動に尽力して下さる教職員、学校関係者の皆様、そして原稿執筆にご協力いただきました皆様、本当にありがとうございました。
(調査広報委員長 道関 貴美)